

7月14日  
1973

### 瀬戸内の舶載品

わが国はたえず大陸文化の影響下にあったといっても過言ではあるまい。とくに瀬戸内地方は中国や朝鮮の文物に接することが多かっただけに、いろいろな舶載品を今につたえている。

それらの中には巡錫僧たちがはるばる将来したものもあろうし、交易や争奪によってもたらされた品もあるに相違ない。

本館では岡山県をはじめ備後・讃岐の一部にわたってこの種の資料を調査し、展示してきたが、今回は15・6世紀の絵画を中心に、若干紹介してみよう。

この試みが隣邦との関係を考えるよすがともなれば幸甚である。

(前田 幹)

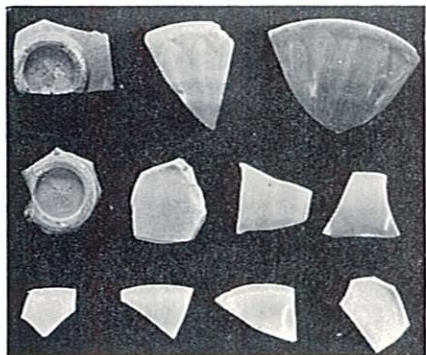
重要文化財

地藏十王像

岡山県笠岡市 日光寺蔵

絹本着色 116.3×58.8

高麗時代末期



青磁・白磁 破片

鹿久居島遺跡出土

岡山県和気郡日生町

南宋時代





重要文化財  
錫杖  
広島県尾道市 西国寺蔵  
鍍金銅 総高 22.1  
唐時代末期



重要文化財  
五鈷鈴  
西国寺蔵  
銅 総高 19.7  
唐時代末期



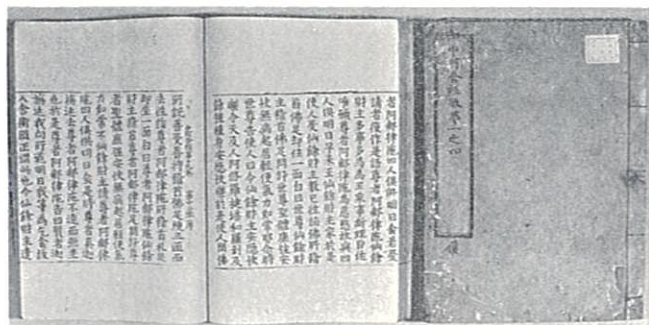
白衣観音図  
広島県尾道市 光明寺蔵  
絹本墨画 39.8×18.6  
南宋時代



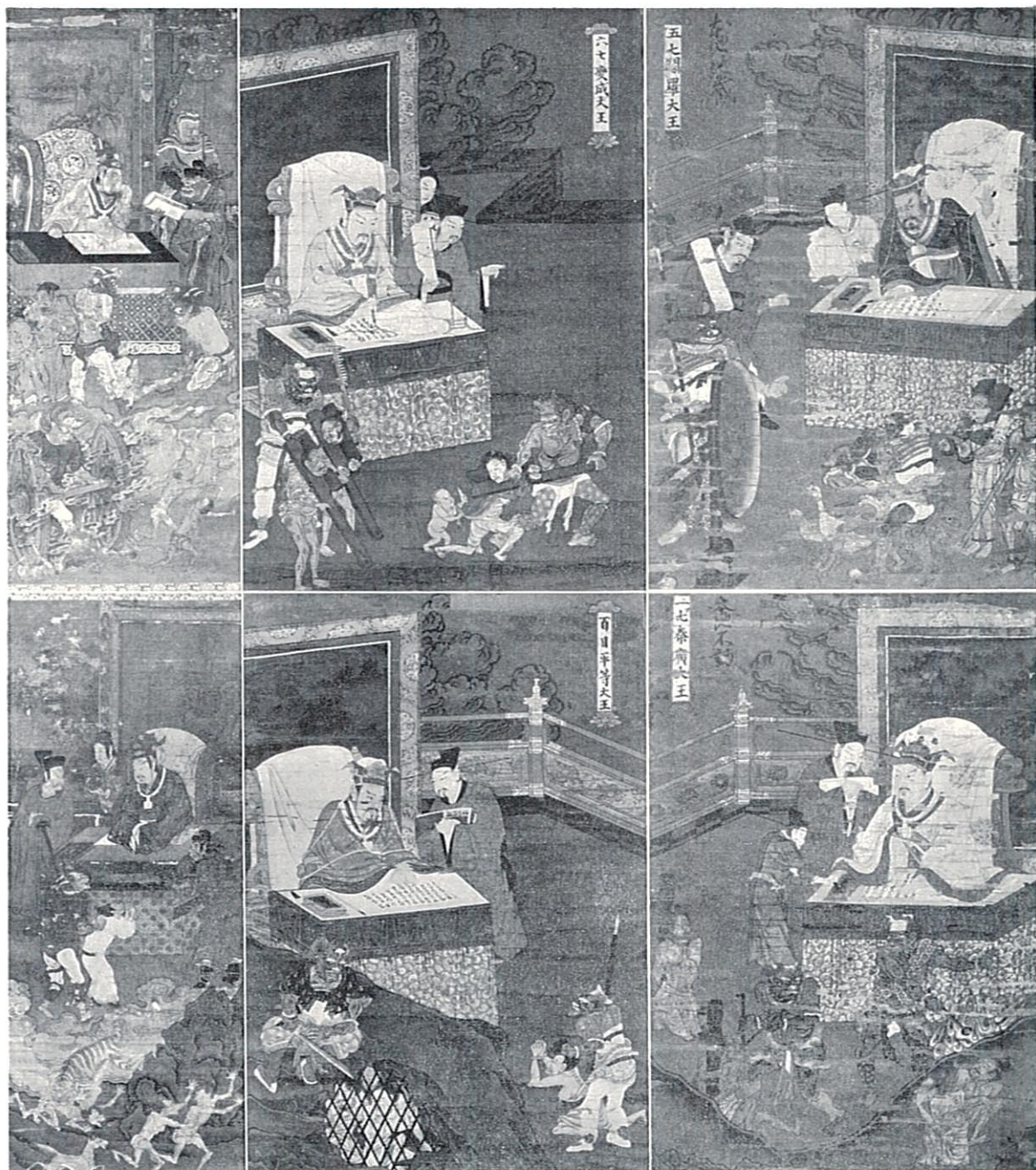
重要文化財 孔雀鎗金経箱  
広島県尾道市 浄土寺蔵  
54.6×35.7 高21.8  
元時代



重要文化財  
銅鐘  
岡山市 西大寺蔵  
高103 口径65  
高麗時代



県指定重要文化財  
高麗版一切経  
岡山市 吉備津神社蔵  
39.9×29.3



重要文化財  
十王像  
岡山県総社市 宝福寺蔵  
絹本着色 98.1×41.1  
明時代

重要美術品  
十王像  
広島県尾道市 浄土寺蔵  
絹本着色 57.6×40.1  
明時代

重要文化財  
十王像  
香川県高松市 法然寺蔵  
絹本着色 52.9×36.1  
明時代

中国の文物は遣唐使廃止後もかなりもたらされて珍重されたが、鎌倉時代にはいと交易がさかなくなり、染織品、薬品・香料、絵具・紙、やきもの、絵画・書籍などが多量に輸入された。

これらの品は「海の廊下」瀬戸内海を通り沿岸の港や市から陸揚げされたはずで、草戸や鹿久居島の千軒遺跡には今も中国の青磁や白磁の破片がちらばっている。また、宋元画をモデルとした大陸系の仏画がいくつかこの地方につたわっているのも不思議ではない。



千手観音像

広島県尾道市 持光寺蔵  
絹本着色 82.7×59.3  
李氏時代（嘉靖11年）



地藏十王像

香川県三豊郡三野町 弥谷寺蔵  
麻布着色 137.7×127.8  
李氏時代（嘉靖25年）



地藏十王像

広島県尾道市 光明寺蔵  
絹本着色 94.6×85.6  
李氏時代（嘉靖41年）



地藏十王像

岡山県久米郡久米南町 誕生寺蔵  
麻布着色 111.3×105.0  
李氏時代（万暦10年）

瀬戸内各地には水軍や豪商の奉納とつたえる朝鮮寺院の什物が散在している。それらの多くは秀吉侵寇（壬辰の倭乱）のさいの収奪物かと思われる。16世紀の朝鮮では内憂外患が続き、不安な世相を反映してさかんに地藏十王像が制作された。また、道

※  
教やシャーマニズム（巫）もひろく信仰され、特異な画像が描かれた。

この時期の朝鮮仏画には願文や施主・画員の名前、年紀等を記しているものが多く、朝日協同の精査が望まれる。



阿弥陀如来像  
岡山県倉敷市 地藏院蔵  
麻布着色 120.3×81.8  
李氏時代



阿弥陀浄土変図  
香川県丸亀市 来迎寺蔵  
絹本着色 115.0×87.7  
李氏時代（万暦10年）



曼荼羅図  
岡山市 西大寺蔵  
麻布着色 122.9×122.9  
李氏時代



曼荼羅図  
岡山県倉敷市 宝島寺蔵  
麻布着色 135.1×162.2  
李氏時代（万暦16年）



観音像  
広島県尾道市 浄土寺蔵  
絹本着色 116.5×65.0  
李氏時代



法華経曼荼羅図  
香川県仲多度郡多度津町 道隆寺蔵  
絹本着色 143.9×50.7  
明時代



蘇文忠公採芝図 曾鯨筆(1568~1650)  
岡山県倉敷市 袖木祥吉郎氏蔵  
絹本着色 114.0×54.8  
明~清時代

### 秋季特別展のお知らせ

昨年度の「岡山県の絵画」展のあとをうけて、本年は10月初旬より「岡山県の中世展」を開催する。「岡山県の中世」といっても、今回は、「中世古文書にみられる岡山県の歴史」を断片的に示してみるつもりである。

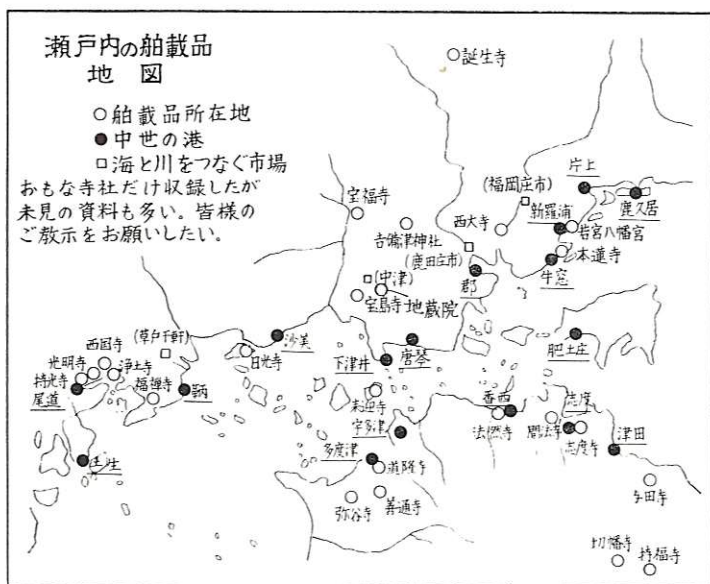
岡山県は近畿・九州について多くのすぐれた中世文書を蔵しているながら、一般に紹介される機会はほとんどなかったといつてよい。

現在、資料の収集を進めており、栄西筆の「誓願寺孟蘭盆縁起」(国宝)をはじめ、「備中国足守庄図」(重文)、備前金岡庄の史料である「額安寺文書」(重文)等の出陳が予定されている。

(三好基之)

### 博物館だより No. 4

発行日 昭和48年7月14日  
発行者 岡山県立博物館  
館長 村井董直  
岡山市後楽園1-5  
TEL(岡山)72-1148



(写真 山崎治雄氏 溝淵和幸氏 岡 徹夫氏)